

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 国語（国語総合-現代文-） | 単位数 | 3 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「高等学校改訂版国語総合」第一学習社 | | | | |
| 副教材等 | 「常用漢字ダブルクリア三訂版」（尚文出版） 「カラー版新国語便覧」（第一学習社） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
 ・基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。
 ・文章を的確に理解し、読み取った内容を自己の内面に反映させ、各自が自分の考えを持つようにする。
 ・自分の考えを的確に表現し、他者とのコミュニケーションを大切にすることを養う。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|-------|------------------|------------------------------|--|----|------------------|
| 4 | 随想（1） | 『驚くという才能』 | 読むこと | 内容を正しく理解し、自己の内面に反映させる。 | 5 | 定期テスト 授業の取り組み |
| 5 | | 『世界は常に更新されている』 | | | 5 | |
| 6 | 小説（1） | 『羅生門』 | 読むこと 話すこと 聞くこと | 人物、情景、心情等を捉え、表現を味わう。 | 14 | |
| 7 | 詩 | 『一つのメルヘン』 他3編 | 読むこと 話すこと | 本文に即して内容を読み取る。 朗読し、表現を味わう。 | 7 | |
| 9 | 評論（1） | 『水の東西』 | 読むこと 書くこと | 東西の対比を正格に把握する。 要約文の書き方を理解する。 | 10 | |
| 10 | 小説（2） | 『夢十夜』 | 読むこと 話すこと 聞くこと | 作品を精読することでそのおもしろさを味わう。 | 14 | |
| 11 | 評論（2） | 『デザインの本意』 | 読むこと 話すこと | 本文に即して内容を読解する。 筆者のメッセージを読み取る。 | 12 | |
| 12 | 小説（2） | 『空き缶』 | 読むこと 話すこと 聞くこと 書くこと | 回想体小説の構造を理解する。 登場人物たちの心理・内面を読み取る。 常に現在形としてあり続ける原子爆弾の問題について考える。 | 22 | |
| 1 | | | | | | |
| 2 | 短歌 | 『その子二十』 | 読むこと 話すこと 聞くこと | 近代の短歌に親しみ、各自の想像力を豊かにする。 朗読し、表現を味わう。 | 9 | |
| 3 | 俳句 | 『こころの帆』 | 読むこと 話すこと 聞くこと | 近代の俳句に親しみ、各自の想像力を豊かにする。 朗読し、表現を味わう。 | 7 | |

4 課題・提出物等

・各学期の初めに課題テストを実施する。
 ・単元ごとにレポートやノートの作成・提出。
 ・長期休暇中の課題は別途指示する。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
|------|---|--|---|---|--|
| 評価規準 | 国語や言語文化への関心を深め、国語を尊重し、進んで理解・表現し伝え合おうとしている。 | 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じて的確に話したり、聞き取ったりしようとしている。 | 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的に応じて筋道を立てて適切に文章を書こうとしている。 | 自分の考えを深めて、様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりしようとしている。 | 表現に役立てるための、文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況） ・定期テスト、単元別の小テスト、課題テスト ・各種提出物 などから、総合的に評価する。 | | | | |

6 担当者からの一言

高校生としての自覚と責任を持ち毎日の学習に取り組むこと。一時間、一時間をおろそかにせず、常に前向きな姿勢で取り組みましょう。一年後に後悔しないために。

| | | | | | |
|---------------|--|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 国語（国語総合-古典-） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「高等学校改訂版国語総合」第一学習社 | | | | |
| 副教材等 | 「カラー版新国語便覧」（第一学習社） 「古典文法クリアノート」（尚文出版） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
 ・基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指す。
 ・文章を的確に理解し、読み取った内容を自己の内面に反映させ、各自が自分の考えを持つようにする。
 ・自分の考えを的確に表現し、他者とのコミュニケーションを大切にする態度を養う。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 | |
|----|--------|---|----------------------|---|----|------------------|--|
| 4 | 古文入門 | 『児のそら寝』 | 読むこと 書くこと | 古文に親しむ。 音読の徹底。 | 6 | 定期テスト 授業の取り組み | |
| 5 | 漢文入門 | 『訓読に親しむ』 （1）（2） | 読むこと 書くこと | 漢文訓読のきまりを学習する。 | 6 | | |
| 6 | 古文入門 | 『絵仏師良秀』 | 読むこと 書くこと | 古典文法入門。 作品を通して自分の考えを深める。 | 7 | | |
| 7 | 漢文入門 | 『訓読に親しむ』 （3） | 読むこと 書くこと | 朗読し、表現を味わう。 漢文訓読に慣れる。 | 8 | | |
| 9 | 物語を楽しむ | 『狐借虎威』 『伊勢物語』 芥川 | 読むこと | 内容を正しく理解し、考えを深める 適切な口語訳の練習をする。 動詞の活用について理解する。 | 8 | | |
| 10 | 故事成語 | 『先従隗始』 | 読むこと 書くこと | 訓読に習熟し、漢文を読み味わう。 | 7 | | |
| 11 | 随筆を読む | 『徒然草』 つれづれなるま まに 丹波に出雲とい ふ所あり | 読むこと 書くこと 聞くこと | 作者のものの見方を理解し、自己に 反映させる。 形容詞・形容動詞の活用 | 8 | | |
| 12 | 古代の史話 | 『完璧』 | 読むこと 書くこと | まとまった漢文を読み、理解する。 故事成語を知る。 | 6 | | |
| 1 | 日記を読む | 『古今著聞集』 | | 和歌の世界に触れる。王朝時代の生 活風習を知る。 | 7 | | |
| 2 | 漢詩の鑑賞 | 刑部卿敦兼の北 の方 | | | | | |
| 3 | | 唐詩の世界 | | 漢詩の世界を学ぶ。 | 7 | | |

4 課題・提出物等

・各学期の初めに課題テストを実施する。
 ・単元ごとにレポートやノートの作成・提出。
 ・長期休暇中の課題は別途指示する。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
|------|---|--|---|---|--|
| 評価規準 | 国語や言語文化への関心を深め、国語を尊重し、進んで理解・表現し伝え合おうとしている。 | 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じて的確に話したり、聞き取ったりしようとしている。 | 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的に応じて筋道を立てて適切に文章を書こうとしている。 | 自分の考えを深めて、様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりしようとしている。 | 表現に役立てるための、文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況） ・定期テスト、単元別の小テスト、課題テスト ・各種提出物 などから、総合的に評価する。 | | | | |

6 担当者からの一言

高校生としての自覚と責任を持ち毎日の学習に取り組むこと。一時間、一時間をおろそかにせず、常に前向きな姿勢で取り組みましょう。一年後に後悔しないために。

| | | | | | |
|---------------|-------------------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 国語（2年現代文） | 単位数 | 3 | 年次（系列） | 2年次（必修） |
| 使用教科書 | 第一学習社「現代文B」 | | | | |
| 副教材等 | 新国語便覧（第一学習社）、常用漢字ダブルクリア（尚文出版） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | | | | | |

1 学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高め、自分のものの見方や考え方を広げると共に、的確な言語で表現する態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 文章を的確に理解することを目指します。
- ② 自分の考えを確立し、的確に表現できる態度を育成します。
- ③ 自己表現に必要な基本的な言語事項の習得を目指します。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------------|-------|------------------|----------------------|---|----|--------------------------|
| 4 | 評論（一） | 「自明性の罣」からの解放 | 読むこと | 評論の基本的な読み方を習得する。 | 8 | 定期考査 授業の取り組み 課題の提出 |
| 5 | 評論（四） | 「働かないアリに意義がある」 | 読むこと | 具体例と筆者の意見の対応を理解し、論の展開を把握する。 | 8 | |
| 6 | 小説（一） | 山月記 | 読むこと | 小説の基本的な読み方を習得する。自己の問題に引きつけながら読む姿勢を養う。 | 16 | |
| | 評論（二） | 「私」中心の日本語 | 読むこと 知識・理解 | 日本人の美意識や言語感覚について理解を深める。 | 8 | |
| 7 | 詩 | ちがう人間ですよ 永訣の朝 | 読むこと 話すこと | 基本的な詩の読み方を習得する。詩に込められた作者の思いを読み取る | 6 | |
| 9 | 評論（三） | 存在としての建築 | 読むこと 書くこと | 抽象的な言葉の意味を押さえ、その内容や背景を理解する力を養う。 | 10 | |
| 10 | 評論（五） | 動的均衡 | 読むこと 知識・理解 | 二項対立を相対化し、止揚するという論の展開を正確に捉える。 | 12 | |
| 11 | 小説（三） | バクダットの靴磨き | 読むこと 書くこと | 登場人物の人物像をまとめる。小説の主題に迫り、自分の考えを述べる。より抽象度の高い文章の読み方に習熟する。 | 12 | |
| 12 | 評論（六） | 「グローバル化」の中の異文化理解 | 読むこと 書くこと | 社会的関係についての筆者の主張を把握し、それらに対する自分の意見を明確にする。 | 8 | |
| 1 2 3 | 小説（四） | こころ | 読むこと 話すこと 聞くこと | 小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身につける。 | 17 | |

4 課題・提出物等

- ・常用漢字ダブルクリアについては定期考査ごとに提出してもらいます。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
|------|---|-----------------------------------|----------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 評価規準 | 国語や言語文化への関心を深め、進んで理解しようとしている。 | 自分の考えをまとめて話したり、的確に聞き取ったりしようとしている。 | 自分の考えを適切に表現しようとしている。 | 目的に応じて様々な文章を的確に読み取ろうとしている。 | 適切な表現をするために、文法・知識・語句を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点をふまえ、定期考査、課題の提出、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。 | | | | |

6 担当者からの一言

様々な文章に触れ、自らの日本語の能力を高めてください。

| | | | | | |
|---------------|-------------------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 国語（ 3年現代文 ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（必修） |
| 使用教科書 | 第一学習社「現代文B」 | | | | |
| 副教材等 | 新国語便覧（第一学習社）、常用漢字ダブルクリア（尚文出版） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高め、自分のものの見方や考え方を広げると共に、的確な言語で表現する態度を育てる。

2 指導の重点

- ④ 文章を的確に理解することを目指す。
 ⑤ 自分の考えを確立し、的確に表現できる態度を育成する。
 ⑥ 自己表現に必要な基本的な言語事項の習得を目指す。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|-------|------------------|----------------------|---|----|-----------------------------------|
| 4 | 評論（一） | 『写真の持つ力』 | 読むこと 話すこと 書くこと | 論理的な文章を正確に読み取り、現代の諸問題を自身の問題として主体的に捉える。 | 6 | 定期考査 学習課題集 授業の取り組み 課題の提出 |
| 5 | 小説（一） | 『タオル』 | 読むこと 話すこと | 短編小説の叙述のおもしろさを味わう。 | 10 | |
| 6 | 評論（二） | 『いのちのかたち』 | 読むこと 話すこと 書くこと | 論理的な文章を正確に読み取り、他者との関わりを考える。 | 8 | |
| 7 | 小説（二） | 『檸檬』 | 読むこと 話すこと | 近現代の代表的な作品を鑑賞し、そこから感じることを話し合う。 | 8 | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | 詩（一） | 『足と心』 | 読むこと 話すこと 書くこと | 詩特有の表現、リズムを味わい、詩に込められた作者の思いを読み取り、鑑賞し合う。 | 10 | |
| 11 | 評論（三） | 『目に見える制度と見えない制度』 | 読むこと 話すこと 書くこと | 評論の読み方に習熟し、人間をとりまく制度に対する関心と問題意識を深める。 | 16 | |
| 12 | 小説（三） | 『おおるり』 | 読むこと 話すこと | 文章表現の特徴に注目し、小説のおもしろさを味わう。 | 12 | |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |

4 課題・提出物等

・各教材の学習終了時に、学習課題集による学習を設定している。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
|------|--|----------------------------------|----------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 評価規準 | 国語や言語文化への関心を深め、進んで理解しようとしている。 | 自分の考えをまとめて話したり、的確に聞き取ろうとしたりしている。 | 自分の考えを適切に表現しようとしている。 | 目的に応じて様々な文章を的確に読み取ろうとしている。 | 適切な表現をするために、文法・知識・語句を身につけようとしている。 |
| 評価方法 | 以上の観点をふまえ、定期考査、課題の提出、授業の取り組みなどから、総合的に評価する。 | | | | |

6 担当者からの一言

様々な文章に触れ、自らの日本語の能力を高めてください。

| | | | | | |
|---------------|-------------------------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 地理歴史（地理A） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（必修） |
| 使用教科書 | 清水書院「高等学校 現代地理A 最新版」 二宮書店「基本地図帳」 | | | | |
| 副教材等 | 第一学習社「最新地理図表 GEO」 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

地理的なものの見方・考え方を養い、2年次以降の他教科・科目の学習や、社会生活上必要となるものごとの空間的把握の基礎とする。
自然環境と人間の諸活動の関係性を、さまざまの実例を通じて理解する。

2 指導の重点

学習事項の平板な暗記とならないよう、地図を用いて位置の把握や空間的特性理解を促す。また、学習事項については実例を豊富に提示する。
さらに、地図作業等の課題を適宜行い、理解をさらに深める。
内容については、教科書の配列通りではなく、学習目標を達成するため特に必要な部分を選択して学習する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|--------------|-------------|------|--------------|---|-----|-----------|
| 4・5 | 球面上の世界と地域構成 | 教科書等 | 地球・地図 | 球体としての地球理解 地図作成の理論・実例 緯度・経度の読み取り | 1 4 | 定期考査・小テスト |
| 6・7 | 結びつく世界 | 教科書等 | 国際組織・条約・貿易 | 国際組織・条約の種類と実例 貿易（食料・エネルギー資源） 企業の国際的活動 | 1 2 | 定期考査・小テスト |
| 8 ～ 10 | 自然環境 | 教科書等 | 地形・気候 | プレートテクトニクスと大地形 中・小地形（と人間の生活） 各種の気候帯と人間の生活 水の循環 | 1 5 | 定期考査・小テスト |
| 11 ～ 1 | 地誌 | 教科書等 | 地誌 | モンスーンアジア 西アジア・アフリカ ヨーロッパ | 1 5 | 定期考査・小テスト |
| 1 ～ 3 | 人類の課題 | 教科書等 | 人口問題 環境問題 | 「南」・「北」の不均衡 発展途上国の人口問題 先進工業国の人口問題 水・資源問題 環境問題 | 1 4 | 定期考査・小テスト |

4 課題・提出物等

小テストは随時実施
白地図作業も随時提出
特に指定した内容についてレポート作成・提出も求めることがある（最大で年3回程度）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|------------------------------|
| 評価規準 | 学習した知識を復習によって定着させようとしている。自主的に課題設定をし、調べようとしている。 | 学習したことを組み立てて因果関係や結果を推論し、的確な表現（話し言葉・書き言葉・図）により示そうとしている。 | 地図・資料集を円滑に利用しようとしている。調べ学習においてはインターネットのほか、各種の図書や新聞記事等を使って調べようとしている。 | 社会科学関係科目と連携し、総合的に理解しようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査の結果の点数を基礎に、他の成果（出席・授業態度・提出物の提出状況）を加味し、総合的に点数評価する。特に年度末には出席状況を大きく成績に反映する。 | | | |

6 担当者からの一言

まずは、知ろうとする好奇心。面倒を恐れず調べる積極性。また、数的・論理的思考の出来ないものは訓練（ちょっとした数式計算など）が出来るようにしておくことが求められる。

| | | | | | |
|---------------|----------------------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 地理歴史（世界史A） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（必修） |
| 使用教科書 | 第一学習社 『高等学校 改訂版 世界史A』 | | | | |
| 副教材等 | 第一学習社 『ダイアログ 世界史図表』 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 大学入試センター試験、私立大学文系の受験に利用可。 | | | | |

1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることがこの科目の目標です。

2 指導の重点

歴史を学ぶにあたって何よりも重要なことは、歴史的事実をしっかりと理解することです。そのうえで、事実と事実をつなぐ「論理」に着目します。歴史とは連続的に起こっている事実の積み重ねなので、事実と事実の間に必ず関連があります。それを探ることが重要な点の二つ目です。この二つのことがしっかりできるように、毎時間の授業を行います。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 | |
|----|---------------|---------------------|---------------------------------------|------------------------------|--------|----------------|-----------------|
| 4 | (1) 世界史へのいざない | 自然環境と歴史 | 資料活用、知識理解 試行・判断・表現 | 自然環境と人類の営み | 2 | 第1回考査 ノート提出 | |
| 5 | | 日本列島の中の世界の歴史 | | 日本列島に見られる世界とのつながり | 4 | | |
| 6 | | ユーラシアの諸文明 | | ユーラシアの諸地域世界 ユーラシアの交流圏 | 6 6 | | |
| 7 | (2) 世界の一体化と日本 | 結びつく世界と近世の日本 | 関心・意欲・態度 知識・理解 | 世界の諸帝国とヨーロッパ | 6 | | 第2回考査 課題レポート |
| 8 | | ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 | | 大西洋世界の変容とその波及 産業化社会の拡大と成熟 | 6 6 | | |
| 9 | | アジア諸国の変貌と近代の日本 | | アジア諸国の変貌と日本 | 6 | | |
| 10 | | 急変する人類社会 | | 帝国と民族の時代 | 6 | | |
| 11 | (3) 地球社会と日本 | 世界戦争と平和 | 関心・意欲・態度 思考・判断・表現 資料活用 知識・理解 | 二つの世界大戦の時代 | 6 | 第3回考査 ノート提出 | |
| 12 | | 三つの世界と日本の動向 | | 冷戦と民族独立の時代 | 6 | | |
| 1 | | 地球社会への歩みと課題 | | グローバル化の中の危機 | 6 | | |
| 2 | | 持続可能な社会への展望 | | 21世紀に生きる | 4 | | |
| 3 | | | | | 4 | | 第5回考査 ノート提出 |

4 課題・提出物等

授業ノートの提出は必要に応じて随時行う。ほかに、夏休みなど長期休業中に課題レポートを作成させることがある。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 | 知識・理解 |
|------|---|---|--|---|
| 評価規準 | 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会を生きる人としての責務を果たそうとしている。 | 世界の歴史から課題を見だし、それを多面的、多角的に考察、判断して、適切に表現しようとしている。 | 世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ろうとしている。 | 世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本史との関連でもとらえて理解し、知識として身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 定期考査5回 授業ノート・レポート類の提出 | | | |

6 担当者からの一言

世界史は地球上のすべての地域を対象に歴史を学ぶ科目です。これから、世界の多くの人たちとつきあわなければならない皆さんにとっては、大変重要な勉強といえます。面倒がらずに地道に取り組みましょう。

| | | | | | |
|---------------|----------------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 公民（現代社会） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 実教出版『最新現代社会 新訂版』 | | | | |
| 副教材等 | 東京法令出版社『新編テーマ別資料 現代社会2018』 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必修 センター試験受験など利用可。 | | | | |

1 学習目標

人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

○進学、就職等、進路希望が多岐に亘っている。よって下記の事項に重点を置く。

- ①基本用語の理解に努める。
- ②現代社会を理解するための基本的な事項についての学習を徹底する。
- ③自分を取り巻く社会について関心を持ち様々角度から見つめ、考えさせる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|------------------|-------------------|----------------------------|---|----|--|
| 4 | I 現代に生きるわたしたちの課題 | | 思考・判断 | 1 地球環境問題 | 3 | ・学習状況 プリント レポート 第1回考査 |
| 5 | | | 技能・表現 | 2 資源・エネルギー問題 | 3 | |
| | | | | 3 科学技術の発達と生命 | 3 | |
| | | | | 4 日常と宗教・芸術 | 4 | |
| | | | | 5 豊かな生活と福祉社会 | 5 | |
| 6 | II 現代の社会と人間 | 第1章 現代の社会生活と青年 | 関心・意欲・態度 | 1 わたしたちの生きる現代社会 2 自分らしく生きる 3 人間らしく生きる | 5 | ・学習状況 プリント レポート 第2回考査 ・学習状況 プリント レポート 第3回考査 ・学習状況 プリント レポート 第4回考査 ・学習状況 プリント レポート 第5回考査 |
| 7 | | | 知識・理解 | | 5 | |
| 9 | | | 関心・意欲・態度 | | 4 | |
| | | | | | 6 | |
| 10 | | | 知識・理解 | | 6 | |
| 11 | | | 技能・表現 | | 4 | |
| | | | | | 5 | |
| 12 | | | 知識・理解 | | 6 | |
| 1 | | | 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 | | 4 | |
| 2 | | | | | 4 | |
| 3 | | 4 | | | | |

4 課題・提出物等

授業で使用するノートの提出。レポートの提出（年数回提出）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 | 知識・理解 |
|------|---|---|-------------------------------|---|
| 評価規準 | 各単元の内容について積極的に考え調べ、授業に取り組もうとしている。 | 様々な現代社会の課題について考え、それについて自分なりの意見を持つようとしている。 | 統計資料などから特色や課題を見つけてまとめようとしている。 | 社会的な事象の意義を理解するために必要な基本的な知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み（授業ノート、プリントの提出）、レポート提出、定期考査を総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

私達の身の回りの社会的な出来事はすべて関連しあっています。「自分」と「社会」の関係について理解するために、基本的事項から学んでいきましょう。

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 数学 I | 単位数 | 3 | 年次 (系列) | 1 年次 (必修) |
| 使用教科書 | 数研出版「改訂版 新編 数学 I」, プリント教材 (担当者作成) | | | | |
| 副教材等 | 数研出版「基本と演習テーマ 数学 I + A」, 演習プリント (担当者作成) | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 数学検定・大学, 短大および看護系専門学校等 | | | | |

1 学習目標

数と式、図形と計量、二次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、自称を数学的に考察する能力を培い数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

数式の計算、方程式、不等式の解法、関数のグラフ、三角比、データの分析といった高校数学における基礎的な知識と技能を習得する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|--------|----|------------|---------------------------------|-------------|----------|
| 4 | 数と式 | | 式の展開と因数分解 | 展開 因数分解 | 1 2 | 定期テスト |
| 5 | | | 実数 | 根号を含む式の計算 | 2 | |
| 6 | 集合と命題 | | 一次不等式 | 1 次不等式の解法、連立不等式 | 5 | 授業への取り組み |
| 7 | | | 集合 | 命題 条件 | 3 | |
| 8 | 2 次関数 | | 命題と条件 | 2 次関数のグラフ | 5 | 課題提出 |
| 9 | | | 2 次関数とグラフ | 平方完成 | 1 5 | |
| 10 | 図形と計量 | | 2 次関数の値の変化 | 最大値 最小値 | 4 | |
| 11 | | | 2 次方程式と不等式 | 2 次方程式の解法 解の公式 2 次不等式の解法 | 8 8 | |
| 12 | データの分析 | | 三角比 | | 8 | |
| 1 | | | 三角形への応用 | 正弦定理 余弦定理 | 1 2 | |
| 2 | 課題学習 | | データの整理 | 三角形の面積 | 4 | |
| 3 | | | データの代表値 | 空間図形への応用 | 2 | |
| | 課題学習 | | 分散と標準偏差 | 度数分布 ヒストグラム | 3 | |
| | | | 仮平均とデータの分析 | 平均値 中央値 四分位数 分散 標準偏差 相関係数 | 3 4 2 | |

4 課題・提出物等

- 定期考査：学期ごとに中間・期末考査を行う。
- 提出物：期限を守れたか。内容はどうか。
- 授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み等。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 数学的な見方や考え方 | 数学的な技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けようとしている。 | 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けようとしている。 | 数学における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 上記の4つの観点に沿って、 ○ 定期考査 ○ 授業中の態度・取り組み、課題等の提出物を元に、総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

これから数学を学んでいくための基礎となります。確実に力をつけておきたいところです。

| | | | | | |
|---------------|--------------------------------------|-----|---|---------|----------|
| 教科 (科目) | 数学A | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 1年次 (必修) |
| 使用教科書 | 数研出版「改訂版 新編 数学A」, プリント教材 (担当者作成) | | | | |
| 副教材等 | 数研出版「基本と演習テーマ 数学I+A」, 演習プリント (担当者作成) | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 数学検定・大学, 短大および看護系専門学校等 | | | | |

1 学習目標

場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

数学Aでは小・中学校での既習事項を発展させた内容を扱う。「図形の性質」において直感的な判断、「場合の数と確率」、「整数の性質」では論理的な思考を用いて解決することに重点を置いて指導する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 | | |
|----|----------|-------------------|--------|-------------------------------------|-----------------------|---------------------|--|-------|
| 4 | 場合の数と確率 | | ・場合の数 | 集合の要素の個数 場合の数 順列 組合せ | 18 | 定期テスト 授業への取組 | | |
| 5 | | | | ・確率 | | | 事象と確立 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付き確率 | |
| 6 | | | | | | | 図形の性質 | ・平面図形 |
| 7 | 空間図形 | 直線と平面 空間図形と多面体 | | | | | | |
| 9 | | 整数の性質 | ・約数と倍数 | 約数と倍数 最大公約数・最小公倍数 整数の割り算と商・余り | | | | |
| 10 | | | | ユーグリッドの互除法 | ユーグリッドの互除法 1次不定方程式 | | | |
| 11 | 整数の性質の活用 | | | | 分数と小数 n進法 | | | |
| 12 | | | | | 10 | | | |
| 1 | | | | | | | | 4 |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | 4 | | | |

4 課題・提出物等

- 定期考査：学期ごとに中間・期末考査を行う。
- 提出物：期限を守れたか。内容はどうか。
- 授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み等。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 数学的な見方や考え方 | 数学的な技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けようとしている。 | 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けようとしている。 | 数学における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 上記の4つの観点に沿って、 ○定期考査 ○授業中の態度・取り組み、課題等の提出物を元に、総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

ただ覚えて答えるのではなく、学んだことを利用して正解を導く思考を身につけてください。

| | | | | | |
|---------------|-------------------|-----|---|---------|----------|
| 教科 (科目) | 理科 (科学と人間生活) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 1年次 (必修) |
| 使用教科書 | 啓林館 科学と人間生活 | | | | |
| 副教材等 | 啓林館 科学と人間生活の学習ノート | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必修 | | | | |

1 学習目標

自然と人間生活のかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2 指導の重点

日常にある科学に対する事項と学習内容を関連づけ、身近にある科学に興味を持ち学習できるよう動機づける。
物理・化学・生物を学ぶために必要な基礎知識や技能を理解するための、学習方法を身につけ、活用出来るようにすることをねらいとしている。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|-------------------|----|--|------------------------------------|----|--------------|
| 4 | 科学技術の発展 光や熱の科学 | | <ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展 熱の性質とその利用 | 情報・交通手段・医療の発展 熱とは何か エネルギーの利用 | 6 | プリント 定期考査 |
| 5 | | | | | 8 | |
| 6 | 生命の科学 | | <ul style="list-style-type: none"> 生物と光 | 植物の生育と光 人の視覚と光 動物の行動と光 | 10 | プリント 定期考査 |
| 7 | | | | | | |
| 9 | | | | | 8 | |
| 10 | 宇宙や地球の科学 | | <ul style="list-style-type: none"> 身近な天体と太陽系における地球 | 太陽系の中の地球 太陽と人間生活 天体の運行と人間生活 | 8 | プリント 定期考査 |
| 11 | | | | | 8 | |
| 12 | 物質の科学 | | 材料とその再利用 | | 16 | プリント 定期考査 |
| 1 | これからの科学と 人間生活 | | これからの科学と人間生活 | 課題研究の進め方 | 8 | プリント 定期考査 |
| 2 | | | | | 6 | |
| 3 | | | | | | |

4 課題・提出物等

○定期考査：第1回考査～第5回考査 ○単元テスト

○授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み等。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 観察・実験の技能表現 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 評価規準 | 身近な事物・現象に関心や探求心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につけようとしている。 | 身近な事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験、調査などを行うとともに、これからの科学と人間生活との関わり方について科学的・論理的に思考し、判断することができる。 | 身近な事物・現象に関する観察・実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身につけ、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。 | 科学技術の発展の人間生活への貢献。身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解できる。 |
| 評価方法 | 上記の4つの観点に沿って、 ○定期考査、 ○授業中の態度・取り組み、課題等の提出物を元に、総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

日常的な科学事象に関心を持ち、なぜ、どうしての感覚を持ってください。幅広い分野について取り扱います、単元ごとにとしっかりと学習してください。

| | | | | | |
|---------------|--------------------|-----|---|---------|-----------|
| 教科 (科目) | 理科 (化学基礎) | 単位数 | 2 | 年次 (系列) | 1 年次 (必修) |
| 使用教科書 | 数研出版 改訂版 新編 化学基礎 | | | | |
| 副教材等 | 数研出版 リードライトノート化学基礎 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必修 | | | | |

1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、化学的に探求する能力と態度を持つとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2 指導の重点

私たちの周りには様々な物質があり、生命活動も化学反応の組合せです。化学は暮らしを便利にし、健康や安全にも大きく関わってきます。物質の世界を理解し、私たちの暮らしを支える化学の基礎を学習する。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|---------|---------|---|---|--|-------------------------|
| 4 | 物質の構成 | | <ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動 | <ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動 | 6 | 定期テスト 授業への取組 課題提出 |
| 5 | 物質の構成粒子 | | <ul style="list-style-type: none"> 原子とその構造 イオン 周期表 | <ul style="list-style-type: none"> 原子とその構造 イオン 周期表 | 6 | |
| 6 | 粒子の結合 | | <ul style="list-style-type: none"> イオン結合とイオンからなる物質 分子と共有結合 分子の極性 共有結合の物質 金属結合と金属 | <ul style="list-style-type: none"> イオン結合とイオンからなる物質 分子と共有結合 分子の極性 共有結合の物質 金属結合と金属 | 1 4 | |
| 7 | | | | | 8 | |
| 9 | 物質と化学変化 | | <ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量 | <ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量 | 1 4 | |
| 10 | | | | | 1 2 | |
| 11 | 1 2 | | | | | |
| 12 | | 酸と塩基の反応 | | <ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基 水の電離と水溶液の p H 中和反応 塩 | <ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基 水の電離と水溶液の p H 中和反応 塩 | 1 2 |
| 1 | 酸化還元反応 | | <ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用 | 1 0 | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

4 課題・提出物等

- 定期考査：第1回考査～第5回考査
- 提出物：期限を守れたか。内容はどうか。
- 授業態度：出席状況、毎時間の授業の取り組み等。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 化学的な見方や考え方 | 化学的な技能 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 化学の論理や体系に関心をもつとともに、化学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して化学的論拠に基づいて判断しようとしている。 | 事象を化学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、化学的な見方や考え方を身に付けている。 | 事象を化学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの実験技能を身に付けている。 | 化学における基本的な概念、原理、法則などを体系的に理解し、知識を身に付けようとしている。 |
| 評価方法 | 上記の4つの観点に沿って、 ○定期考査 ○授業中の態度・取り組み、課題等の提出物を元に、総合的に評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

私たちの周りに様々な物質があり、多くの化学反応が起こっています。物質の理解し、私たちの暮らしを支える化学を学びましょう。物質の性質だけでなく、量的な関係も扱うため、分数や指数の計算は丁寧にやる必要があります。

| | | | | | |
|---------------|-------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 保健体育（ 体育 ） | 単位数 | 3 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「最新高等保健体育」 大修館書店 | | | | |
| 副教材等 | 最新高等保健体育ノート 大修館書店 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。

2 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、
 ・能力の限界に挑戦する、精一杯努力する態度を育成する。
 ・公正、協力、責任などの態度を育成する。
 ・礼儀正しく素直な態度を育成する。
 と心の育成を目指し、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|---------------------|------------|---------------------|-----------------------------------|---------|---|
| 4 | オリエンテーション 体づくり運動 | | オリエンテーション 体づくり運動 | 挨拶、点呼など授業に必要な事項の説明 集団行動、体ほぐし運動 | 3 11 | 1年間を通じて、 ・授業態度 ・実技への取り組み ・実技テスト ・レポート 等を総合的に判断して評価を行う。 |
| 5 | 陸上競技 | | 陸上競技 | 持久走 | 7 | |
| 6 | 陸上競技 | | 陸上競技 | 短距離走・円盤投げ・高跳び | 5 | |
| 7 | 武道・ダンス | | 柔道・ダンス | 柔道・ダンス | 7 | |
| 9 | 球技 | | 球技 | サッカー、ソフトボール | 14 | |
| 10 | 陸上競技 体育理論 | 「最新高等保健体育」 | 陸上競技 | 持久走 スポーツの始まり・スポーツ文化の楽しみ方 | 6 3 | |
| 11 | 武道・ダンス 球技 | | 柔道・ダンス 球技 | 柔道・ダンス ソフトボール・バドミントン | 8 16 | |
| 12 | 球技 | | 球技 | バスケ・バレー | 15 | |
| 1 | 体育理論 | 「最新高等保健体育」 | 運動・スポーツの | スポーツの始まり・スポーツ文化の楽しみ方 | 3 | |
| 2 | 武道・ダンス | | 文化的特徴 | オリンピックと国際理解・ドーピングとスポーツ理論 | 7 | |
| 3 | | | 柔道・ダンス | 柔道・ダンス | | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 運動の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--|
| 評価規準 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 |
| 評価方法 | 授業態度、実技への取り組み、実技テスト、レポート等を元に関心・意欲・態度（30%）、思考・判断（30%）、運動の技能（30%）、知識・理解（10%）の割合で評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

体づくり運動や持久走により、基礎体力の向上を目指します。また、各種目においては基本技術の習得や種目ごとのルールを理解を深めます。

| | | | | | |
|---------------|------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 保健体育（ 体育 ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（必修） |
| 使用教科書 | 「最新高等保健体育」 大修館書店 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。

2 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、
 ・能力の限界に挑戦する、精一杯努力する態度を育成する。
 ・公正、協力、責任などの態度を育成する。
 ・礼儀正しく素直な態度を育成する。
 と心の育成を目指し、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------------|---------------------|------------|---------------------|-----------------------------------|---------|---|
| 4 | オリエンテーション 体づくり運動 | | オリエンテーション 体づくり運動 | 挨拶、点呼など授業に必要な事項の説明 集団行動、体ほぐし運動 | 1 7 | 1年間を通じて、 ・授業態度 ・実技への取り組み ・実技テスト ・レポート 等を総合的に判断して評価を行う。 |
| 5 6 | 陸上競技 | | 陸上競技 | 持久走 短距離走・走り幅跳び・高跳び | 10 | |
| 7 | | | | | | |
| 9 | 球技 陸上競技 | | 球技 陸上競技 | サッカー・ソフトボール・テニス 持久走 | 14 4 | |
| 10 | 球技 | | 球技 | サッカー・ソフトボール・テニス | 8 | |
| 11 | 球技 | | 球技 | バドミントン・バスケットボール・バレーボール | 6 | |
| 12 | 体育理論 | 「最新高等保健体育」 | 運動・スポーツの 学び方 | 体力トレーニング・運動、スポーツにおける安全の確保 | 6 | |
| 1 2 3 | 球技 | | 球技 | バドミントン・バスケットボール・バレーボール | 14 | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 運動の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--|
| 評価規準 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 |
| 評価方法 | 授業態度、実技への取り組み、実技テスト、レポート等を元に関心・意欲・態度（30%）、思考・判断（30%）、運動の技能（30%）、知識・理解（10%）の割合で評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

2年生の体育はより一層の体力の向上を図るとともに、自ら積極的に体力向上への意識を高めます。また、各種目においても自ら進んで練習方法など考え、実行できるようにしていく。

| | | | | | |
|---------------|------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 保健体育（ 体育 ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 3年次（必修） |
| 使用教科書 | 「最新高等保健体育」 大修館書店 | | | | |
| 副教材等 | | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。

2 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、
 ・能力の限界に挑戦する、精一杯努力する態度を育成する。
 ・公正、協力、責任などの態度を育成する。
 ・礼儀正しく素直な態度を育成する。
 と心の育成を目指し、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|----------------|------------|-------------------|------------------------------------|--------|---|
| 4 | オリエンテーション | | オリエンテーション | 挨拶、点呼など授業に必要な事項の説明 | 1 | 1年間を通じて、 ・授業態度 ・実技への取り組み ・実技テスト ・レポート 等を総合的に判断して評価を行う。 |
| 5 | 体づくり運動 陸上競技 | | 体づくり運動 陸上競技 | 集団行動、体ほぐし運動 持久走 | 7 9 | |
| 6 | 体育理論 | 「最新高等保健体育」 | 豊かなスポーツ ライフの設計 | スポーツの歴史、文化的特性、現代スポーツの 特徴 | 3 | |
| 7 | 選択授業① | | 選択授業 | 4種目から選択（ソフトボール・サッカー テニス・バドミントン） | 17 | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | | | | | | |
| 11 | 選択授業② | | 選択授業 | | 15 | |
| | 体育理論 | 「最新高等保健体育」 | 豊かなスポーツ ライフの設計 | スポーツの歴史、文化的特性、現代スポーツの 特徴 | 3 | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | 選択球技③ | | 選択授業 | 2種目から選択（バスケット・バレーボール） | 15 | |
| 2 | | | | | | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 運動の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--|
| 評価規準 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方をりかいている。 |
| 評価方法 | 授業態度、実技への取り組み、実技テスト、レポート等を元に関心・意欲・態度（30%）、思考・判断（30%）、運動の技能（30%）、知識・理解（10%）の割合で評価する。 | | | |

6 担当者からの一言

3年生の体育では自分自身の体力向上への意識を高め、自ら進んで体力づくりか出来るようにする。また生涯スポーツの観念から、各種目の意欲関心を高めるとともにより高い知識を技術の習得を目指す。

| | | | | | |
|---------------|-------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 保健体育（保健） | 単位数 | 1 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「最新高等保健体育」 大修館書店 | | | | |
| 副教材等 | 「最新高等保健ノート」 大修館書店 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、
 ・生涯を通じて自らの健康を的確に管理・改善するための知識の理解を深める。
 ・健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理・改善していく態度を育てる。
 について重点をおいて指導を行う。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|---------|-------------------|--|--|--------|---|
| 4 | 現代社会と健康 | 教科書 図説 プリント | 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた | 健康の考え方の変化、健康を成り立たせる要因 わが国の健康水準、健康問題 | 2 2 | 1年間を通じて、 テスト・レポート 等を基にし、出席 ・態度を考慮して 評価する。 |
| 5 | | | 健康に関する意志決定・行動選択 と環境づくり | ヘルスプロモーションによる環境づくり | 2 | |
| 6 | | | 生活習慣病とその予防 | 生活習慣病と予防方法 | 2 | |
| 7 | | | 食事と健康 | 健康的な食事 | 2 | |
| 8 | | | 運動・休養と健康 | 運動が健康に及ぼす影響 | 2 | |
| 9 | | | 喫煙と健康 飲酒と健康 | 喫煙・飲酒による健康問題 | 2 | |
| 10 | | | 薬物乱用と健康 感染症とその予防 | 薬物乱用が心身の健康や社会に与える影響 感染症とその予防法 | 2 2 | |
| 11 | | | 性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 | 性感染症・エイズとその予防対策 欲求の種類、適応機種の例 | 2 2 | |
| 12 | | | 心身の相関とストレス 心の健康のために | ストレスの心理・社会的要因と物理的要因 ストレスへの対処法、自己実現と心の健康 | 2 2 | |
| 1 | | | 交通事故の現状と要因 交通事故を防ぐために | 若者の交通事故の特徴、交通事故発生の要因 運転者に必要な資質と責任 | 2 1 | |
| 2 | | | 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心臓蘇生法の原理と行い方 | 応急手当の意義、傷病者を観察するポイント | 2 | |
| 3 | | | | 応急手当の手順・方法 人工呼吸、胸骨圧迫、AEDによる除細動の原理 心肺蘇生法の各手順のポイント | 2 2 | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|
| 評価規準 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |
| 評価方法 | テスト、レポート等を基にし、出席・態度を考慮して評価する。 | | |

6 担当者からの一言

自分自身の健康について考え、日頃の生活の何が必要かを理解します。また、健康で生活するための知識を深め、生涯を通じる健康について関心を高める学習をします。

| | | | | | |
|---------------|-------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 保健体育（保健） | 単位数 | 1 | 年次（系列） | 2年次（必修） |
| 使用教科書 | 「最新高等保健体育」 大修館書店 | | | | |
| 副教材等 | 「最新高等保健ノート」 大修館書店 | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 指導の重点

学習目標を踏まえた上で、
 ・生涯を通じて自らの健康を的確に管理・改善するための知識の理解を深める。
 ・健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理・改善していく態度を育てる。
 について重点をおいて指導を行う。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 | | | | | | | | |
|----|-----------|-------------------|-------------------|------------------------|----------------|---|----------------|--------------|--------------|---------------------|--------------|-------------------|------------|---------------------|
| 4 | 生涯を通じる健康 | 教科書 図説 プリント | 思春期と健康 | 思春期には、生殖器が発達する | 2 | 1年間を通じて、 テスト・レポート 等を基にし、出席 ・態度を考慮して 評価する。 | | | | | | | | |
| | | | 性への関心・欲求と性行動 | 異性の心や体を理解し尊重する | 2 | | | | | | | | | |
| | | | 妊娠・出産と健康 | 母体の健康を維持する | 2 | | | | | | | | | |
| 5 | | | 避妊法の選択と人工妊娠 中絶 | 安全で確実な避妊法 | 2 | | | | | | | | | |
| | | | 結婚生活と健康 | 心身の健康が結婚生活の基盤をつくる | 2 | | | | | | | | | |
| 6 | | | 中高年期と健康 | 年齢とともに体と心は変化する | 2 | | | | | | | | | |
| | | | 医薬品とその活用 | 保健行政は、健康づくりを支援する | 2 | | | | | | | | | |
| 7 | | | 医療サービスとその活用 | 必要な医療を受けられる仕組み | 2 | | | | | | | | | |
| 8 | 社会生活と健康 | | 保健サービスとその活用 | 保健・医療・福祉の連携が健康な暮らしを支える | 2 | | | | | | | | | |
| | | | さまざまな保健活動や対策 | 多くの活動が私たちの健康を支えている | 2 | | | | | | | | | |
| 9 | | | 大気汚染と健康 | 大気汚染の原因と健康への影響 | 大気汚染の原因と健康への影響 | 3 | | | | | | | | |
| 10 | | | | | 水質汚濁、土壌汚染と健康 | 水質汚濁の原因と健康への影響 | 水質汚濁の原因と健康への影響 | 2 | | | | | | |
| 11 | | | | | | | 環境汚染を防ぐ取り組み | ごみ処理の現状とその課題 | ごみ処理の現状とその課題 | 2 | | | | |
| 12 | | | | | | | | | ごみ処理と上下水道の整備 | 行政・生産・製造者による食品安全の対策 | ごみ処理の現状とその課題 | 2 | | |
| | | | | | | | | | | | 食品の安全を守る活動 | 働く人の健康問題、労働災害の防ぎ方 | 食品の安全を守る活動 | 2 |
| 1 | | | | | | | | | | | | | 働くことと健康 | 職場がおこなう健康増進対策、余暇の活用 |
| 2 | 働く人の健康づくり | | 働く人の健康づくり | 2 | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 知識・理解 |
|------|--|--|--|
| 評価規準 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |
| 評価方法 | テスト、レポート等を基にし、出席・態度を考慮して評価する。 | | |

6 担当者からの一言

自らの健康を高める意識はもちろん、現代社会の中で生活する人間として健康のために何が必要なのかを自覚し、自ら考え判断できる知識を身に付けます。

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 芸 術（音楽Ⅰ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（選択必修） |
| 使用教科書 | 「高校生の音楽1」教育芸術社 | | | | |
| 副教材等 | リコーダー、ミュージックノート | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 選択必修（「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「書道Ⅰ」から1科目を必ず選択履修すること） | | | | |

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 指導の重点

世界の幅広い音楽を通して、音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|-----------------------------|---|--------|--|----|--|
| 4 | 独唱曲に親しみ、そのよさを味わおう | 我が太陽、恋しき君 Let It Be、野ばら 上を向いて歩こう 夏の思い出、この道、菩提樹 | | 曲の構成、局の背景の理解 発声等の表現の工夫 曲に応じた表現の工夫 演奏者の発声や言葉の発音 | 12 | 1年間を通じて ・授業態度 ・テスト ・レポート 等を元に評価する。 |
| 5 | アンサンブルの響きを味わおう -合唱曲を中心に- | 荒城の月、ふるさと Swing Low Sweet Chariot Ave verum Corpus 翼をください、ハレルヤ 他 | | アンサンブルのよさ 協調し合って音楽を作り上げる 合唱のよさ、各パートの特徴と役割 合唱の形態、響きの違い、曲の雰囲気 | 12 | |
| 6 | クラシック音楽を味わおう | アヴェ・マリア | | さまざまな形態の音楽 クラシック音楽のよさ 曲の構成や要素 曲の背景や様式 アーティキュレーション等の演奏法 | 12 | |
| 7 | | シチリアーナ ハンズドン令婦人のパフ 交響曲第94番 驚愕 ピアノ協奏曲第1番ボレロ 他 | | | | |
| 8 | アンサンブルの響きを味わおう | シチリアーナ、威風堂々 | | 楽器の種類や特徴、効果的な表現 アンサンブルの調和 アンサンブルの特徴 | 12 | |
| 9 | | 木星、ノルウェーの森 | | | | |
| 10 | | リベルタンゴ、秋の風 他 | | | | |
| 11 | 作曲をしてその曲を表現しよう | アドリブにチャレンジ | | 作曲に必要な要素・手法 曲の構成・要素・雰囲気 | 10 | |
| 12 | | BGMを作ろう | | | | |
| 1 | 世界の諸民族の音楽や日本の伝統音楽に親しもう | 京畿道アヒラン、茉莉花 | | 日本や諸外国の音楽 歌詞の理解、曲の特徴・表現 音楽のよさと美しさ | 12 | |
| 2 | | ソーラン節、谷茶前 | | | | |
| 3 | | 世界の諸民族の音楽 日本の伝統音楽 | | | | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|------|---|--|---|--|
| 評価規準 | 音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 |
| 評価方法 | ○平常の授業態度（出席状況を含む） ○テスト <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎を理解しているのか ・基礎的演奏法をマスターしているか ・音楽を感じて、美しく表現しようとしているか、表現できているか | | | |

6 担当者からの一言

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 芸 術（美術Ⅰ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（選択必修） |
| 使用教科書 | 「高校美術1」 日本文教出版 | | | | |
| 副教材等 | イラストレーションボード、デザインセット、鉛筆、彫刻刀、七宝用具 他（約5,000円） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 選択必修（「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「書道Ⅰ」から1科目を必ず選択履修すること） | | | | |

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊にし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 指導の重点

制作を通して自己を表現することの楽しさを知る。また、絵画、彫刻に対する理解、関心を高め、生涯にわたって芸術作品に触れる喜びを感じていくための美的感性を養う。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|---------------|-----------|-----------|----------|---|----|---|
| 4 | オリエンテーション | 教科書・作品 | 鑑賞 | 「美術Ⅰ」の学習で学ぶこと 授業を受ける時の注意、準備するもの | 2 | 1年間を通じて ・出席状況 ・作品提出 ・授業への取り組み 等を元に評価する。 |
| 4 5 6 | 絵画・彫刻 | イラストレーション | 絵画 | 身近な者を描く ・主題の生成 ・表現形式の特性 ・材料や用具の特性 ・表現方法 | 18 | |
| 7 8 | 絵画・彫刻 | ボードカービング | 彫刻 | ボードカービング ・主題の生成 ・表現形式の特性 ・材料や用具の特性 ・表現方法 | 14 | |
| 9 10 | デザイン | ポスター | デザイン | ポスター（アクリル絵画） ・主題の生成 ・表現の構想 ・デザインの基礎 ・色彩学の基礎 ・材料や用具の特性 ・レタリング | 14 | |
| 11 12 1 | （工芸） | 七宝 | （工芸） | 七宝 ・日本の伝統的な表現のよさ ・制作方法 ・材料や用具の活用 | 14 | |
| 2 3 | 映像メディア表現 | 写真集 | 映像メディア表現 | ・視覚的要素（色光、視点、動き） ・映像メディア機器の特性 ・表現方法や編集の工夫 | 8 | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
|------|--|--|--|--|
| 評価規準 | 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 | 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。 | 美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 |
| 評価方法 | 1年間を通じて ○平常の授業態度（出席状況を含む） ○提出作品 を元に評価を行う。 | | | |

6 担当者からの一言

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|-----------|
| 教科（科目） | 芸 術（書道Ⅰ） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 2年次（選択必修） |
| 使用教科書 | 「書Ⅰ」教育図書 | | | | |
| 副教材等 | 「高校硬筆の練習」教育出版（480円）、筆、墨、紙、表装代（約6,500円） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 選択必修（「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「書道Ⅰ」から1科目を必ず選択履修すること） | | | | |

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

書を愛好し、書写能力を高め、意欲的に表現や鑑賞の活動を行い、その良さや美しさを味わう。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|----|-----------|--------------------|---------------|--|----|--|
| 4 | オリエンテーション | 書へのいざない | | 書写と書道の違い ・用具、用材について ・執筆法、用筆法について | 8 | 1年間を通じて ・作品提出 ・授業態度 ・実技試験 ・筆記試験 等を元に評価する。 |
| 5 | 表現（2） | 漢字の書の学習 | 漢字の書 | 楷書の学習 ・さまざまな楷書（古典）の鑑賞と臨書 行書の学習 ・行書の特徴 | 8 | |
| 6 | 鑑賞 | 草書に親しもう 隷書に親しもう | 草書 隷書 | 古典の鑑賞と臨書 ・草書、隷書に親しむ ・運筆のリズム | 8 | |
| 7 | | 篆刻に親しもう | | 篆刻の学習 | 14 | |
| 8 | | | 姓名印の制作 | | | |
| 9 | | | 文化祭発表のための作品制作 | | | |
| 10 | 表現（1） | 漢字仮名交じりの書の学習 | 漢字仮名交じりの書 | ・用具・用材の特徴 ・名筆を生かした表現 ・隷書の特徴 | 12 | |
| 11 | | | | | | |
| 12 | 表現（3） | 仮名の書の学習 | 仮名の書 | 仮名の学習 ・成立と鑑賞 ・用具、用材の特徴 ・基本「いろは」の学習 ・基本用筆法 ・古典に基づく綿質の表し方 | 10 | |
| 1 | 鑑賞 | 平安時代の古筆を鑑賞しよう | | 古書の学習 ・連綿、変体仮名、散らし書 | 6 | |
| 2 | （実用書） | 高校硬筆の練習 | 実用書 | 実用書 ・封書、履歴書の書き方 硬筆 ・補助教材による練習 | 4 | |

4 課題・提出物等

| |
|--|
| |
|--|

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 書への関心・意欲・態度 | 書表現の創意と工夫 | 創造的な書表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|------|---|--|--------------------------------------|---|
| 評価規準 | 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 | 書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。 | 文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 |
| 評価方法 | ○清書の提出（実技） ○授業態度（欠席、私語、遅刻） ○必要に応じて、実技試験、筆記（理論）試験 | | | |

6 担当者からの一言

| |
|--|
| |
|--|

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|---------|----------|
| 教科 (科目) | 外国語 (コミュニケーション英語 I) | 単位数 | 4 | 学年 (系列) | 1年次 (必修) |
| 使用教科書 | MY WAY English Communication I New Edition (三省堂) | | | | |
| 副教材等 | MY WAY English Communication I New Edition WORKBOOK STANDARD (三省堂) フレーズで英単語3000 (浜島書店) Harmony English Grammar 20Lessons (いっずな書店) Listening Pilot Level1(東京書籍) Wonderland New Edition1 (いっずな書店) | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や他人の考えなどを的確に理解したり、自分の考えを適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 指導の重点

- ① 文章を読んだり聞いたりして、その内容の概念や要点を理解する。
- ② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の表明・交換をしたりする。
- ③ 自分の意見や感想などについて短い英作文を書けるようにする。
- ④ できるだけ正確な英語の運用を目指す。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 学習活動 (指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|--------------|-----------|-----------------------------------|---|----|--|
| 4 ~ 9 | Lesson 1 | A Story about Names | SV, SVO/SVC/SV00 ☆動詞と名詞 | 14 | ①授業へのとりくみ ②課題等提出物 ③小テスト ④定期考査 ⑤課題テストなど |
| | Lesson 2 | Message from Yanase Takashi | SVOC/SVO(0=that節)/比較級・最上級 ☆形容詞と副詞 | 14 | |
| | Lesson 3 | Purposes of the Olympics | 現在進行形/現在完了形/過去完了形 ☆主語と(述語)動詞 | 14 | |
| | Lesson 4 | Hospital Art | 助動詞/受け身/助動詞のついた受け身 ☆前置詞句 | 14 | |
| | Lesson 5 | Writing Systems in the World | 動名詞/to不定詞の3用法/It is...to不定詞 ☆フレーズ・リーディング① | 14 | |
| 10 ~ 3 | Lesson 6 | Washoku | 関係代名詞(主格)(目的格)/関係代名詞what ☆フレーズ・リーディング② | 14 | ①授業へのとりくみ ②課題等提出物 ③小テスト ④定期考査 ⑤課題テストなど |
| | Lesson 7 | From Landmines to Herbs | 現在分詞、過去分詞の形容詞用法/ 分詞構文①② ☆代名詞と接続詞 | 14 | |
| | Lesson 8 | A Mysterious Object from the Past | 関係副詞where, when, why/It is...that ~ ☆時を示す語句 | 14 | |
| | Lesson 9 | Sesame Street | 条件を表すif節/仮定法過去/I wish ~/ as if ~ ☆パラグラフ・リーディング① | 14 | |
| | Lesson 10 | Heritages of Beatrix Potter | SV0+to不定詞/SVOC(C=動詞の原形/現在分詞)/ SV00(0=if/whether節) ☆パラグラフ・リーディング② | 14 | |

4 課題・提出物等

授業で用いるワーク、プリントや小テスト
長期休業中の課題
その他

5 評価規準と評価方法

| 観点 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
|------|--|---|---|--|
| 評価規準 | コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションをとることができる。 | 日常的话题について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現することができる。 | 日常的话题について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解することができる。 | 日常的话题についての英語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解することができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、①授業へのとりくみ、②課題等提出物、③小テスト、④定期考査⑤長期休業後の課題テスト などから総合的に評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

この科目は皆さんが中学校で学習してきた英語を元に、英語を読んだり聞いたり、または英語で考えたり、書いたり、会話したりするものです。グローバルスタンダードである英語を運用する力をこの1年間でしっかり身につけましょう。授業に備えて必ず予習をしてきてください。

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 外国語（コミュニケーション英語Ⅱ） | 単位数 | 4 | 学年（系列） | 2年次（必修） |
| 使用教科書 | My Way English Communication II（三省堂） | | | | |
| 副教材等 | My Way English Communication II WORKBOOK（三省堂） Data Base 3000 基本英単語熟語（桐原書店） 書いて身につくパターンプラクティス 英文法ワークショップ（桐原書店） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 1年次にコミュニケーション英語Ⅰ（4単位）を履修していること | | | | |

1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。

2 指導の重点

- ① 文章を読んだり聞いたりして、その内容の概念や要点を理解する。
- ② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の表明・交換をしたりする。
- ③ できるだけ正確な英語の運用を目指す。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|--------------|-----------|----------------------------------|--|----|--|
| 4 ～ 9 | Lesson 1 | Pictograms | 身近にあるピクトグラムについて学ぶ。SVO/SVC/SVO(o=if節) | 14 | ①授業へのとりくみ ②課題等提出物 ③小テスト ④定期考査 ⑤課題テストなど |
| | Lesson 2 | New Way to Clean Up The Ocean | 海のゴミ問題を通して環境問題について学ぶ。SVO1O2(O2=i節、that節、what節) / it seems that ~ | 14 | |
| | Lesson 3 | Cuba | 異文化理解の一環としてキューバの社会や文化を学ぶ。It is .. for +人+to不定詞、形式目的語it (to不定詞、that節) | 14 | |
| | Lesson 4 | The World's Poorest President | ムサカ氏の主張を通して人生で大切なものについて考える。S VOC(C=動詞の原形、過去分詞) | 14 | |
| | Lesson 5 | Eye Contact | デフリンピックに参加したろう者女子サッカー選手からアイコンタクトの大切さを学ぶ。関係代名詞、関係副詞 | 14 | |
| 10 ～ 3 | Lesson 6 | A Space Elevator | 宇宙エレベーターの構造について学び、その実現可能性について考える。現在完了形、現在完了進行形、過去完了進行形 未来進行形 | 14 | ①授業へのとりくみ ②課題等提出物 ③小テスト ④定期考査 ⑤課題テストなど |
| | Lesson 7 | An Encouraging Song | 時代を超えて歌い継がれるZARDの『負けないで』について知り、坂井さんはどのような思いを込めたのかを知る。助動詞 | 14 | |
| | Lesson 8 | Language Contacts | 小笠原諸島の「小笠原言語」を例に、複数の言語が出会うとき、互いに及ぼす影響について考える。仮定法 | 14 | |
| | Lesson 9 | Charles Chaplin | 20世紀の喜劇王と呼ばれたチャップリンの半生を学び、喜劇王になるまでの葛藤について学ぶ。分詞構文 | 14 | |
| | Lesson 10 | The Five-story Pagoda of Horyuji | 1300年もの間倒れずにその姿を保っている法隆寺の五重塔の秘密を学ぶ。同格のthat / 倒置 / 省略 / 強調構文 | 14 | |

4 課題・提出物等

ワークブック
長期休業中の課題
その他

5 評価基準と評価方法

| 観点 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語表現の能力 | 外国語理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
|------|--|--|--|--|
| 評価基準 | コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションをとることができる。 | 日常的话题について、情報や考えなどを伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現することができる。 | 日常的话题について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどが相手に伝えようとすることを理解することができる。 | 日常的话题についての英語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解することができる。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、①授業へのとりくみ、②課題等提出物、③小テスト、④定期考査 ⑤長期休業後の課題テスト などから総合的に評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

2年次での必修科目ですが、1年次にコミュニケーション英語Ⅰ（4単位）の内容を習得していなければなりません。1年次で勉強したことをベースに、高校レベルの総合的な英語力を伸ばしていきます。

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|---------|
| 教科(科目) | 家庭科(家庭基礎) | 単位数 | 2 | 年次(系列) | 1年次(必修) |
| 使用教科書 | 教育図書「高等学校 家庭基礎」 | | | | |
| 副教材等 | 教育図書「2018 生活学Navi 資料+成分表」「高等学校 家庭基礎 準拠ノート」年間2500円程度(被服・調理実習費など) | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉、家族の健康と衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を身につける。

2 指導の重点

- ① 基礎的・基本的な知識と技術を具体的、実践的に学習します。授業を大切に、要点をプリントにまとめ、学んだ知識を実験・実習などで、体験を通して学習の楽しさを体感することを目指します。
- ② 学習した内容を生活の場に生かせるようにします。授業で学んだことを各自の家庭生活に取り入れ、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活が出来ることを目指します。また、家庭を取り巻く環境にも目をむけられるように指導します。
- ③ 生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付け、生活に役立てられることを目指します。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----|-----------------------------------|---------------------------------|--------------|---|----|--------------------------------------|
| 4 | 青年期の自立と家族 | 自分らしい生き方と家族 | 家族 | ・自分を見つめる ・自立した生き方、共に生きる家族 ・家族に関する法律 | 10 | 第1回考査 第2回考査 第3回考査 |
| 5 | 子どもの発達と保育 | 子どもとかわる | 保育 | ・子どもを知る ・発達のすばらしさ ・子どもの生活 ・親になることを考える | 10 | 学習状況 実習状況 提出物状況 ノート レポート |
| 6 | 高齢期の生活 共生社会と福祉 | 高齢者とかわる 社会とかわる | 高齢社会 社会福祉 | ・高齢社会に生きる私たちの暮らし ・高齢者を知る ・社会保障制度のしくみとは | 8 | |
| 7 | 住生活と自立 | 住生活をつくる | 住生活 | ・人と住まいのかかわり ・安全で健康的な住まい環境 | 5 | |
| 8 | 学んだことを生活に生かそう | ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 | 全般 | ・家庭や学校、地域の課題を考える | 2 | |
| 9 | 衣生活と自立 | 衣生活をつくる | 衣生活 | ・人と衣服のかかわり ・衣服の素材 ・衣生活の管理 | 6 | 第4回考査 学年末考査 学習状況 |
| 10 | | | | ・身近な生活の課題を解決する・衣服の形・デザイン | 7 | 実習状況 提出物状況 ノート レポート |
| 11 | 食生活と自立 | 食生活をつくる | 食生活 | ・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 | 16 | |
| 12 | | | | ・消費行動と意思決定 ・社会の変化と消費生活 ・消費者の権利と責任 ・環境に配慮した消費行動 | 4 | |
| 1 | 消費生活と経済 ライフスタイル と環境 生活設計 | 消費行動を考える 持続可能な社会の実現 人生の設計 | 消費生活 | | 2 | |

4 課題・提出物等

授業で使用するプリントの提出。調理実習等の実習記録の提出。その他作品提出。

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用 | 技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|----|---|
| 評価規準 | 人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者の生活、それらと社会との関わり、衣食住について関心を持つことができる。家庭生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組むことができる。 | 自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めることができる。工夫や創造をとおし、自分の考えをまとめ、適切に表現することができる。 | 生活課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身につけ、問題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。 | | 自分や家族・家庭、地域社会の役割の充実向上にむけて必要な基礎的・基本的な知識を理解できる。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価に従って行う。 ・授業・実習に対する取り組み・態度・提出物。 ・出席の状況 | | | | |

6 担当者からの一言

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図りましょう。

| | | | | | |
|---------------|---|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 情報（社会と情報） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「高校社会と情報」実教出版 | | | | |
| 副教材等 | 全国商業高等学校協会情報処理テキスト P検3級受験テキスト 全国商業高等学校協会ワープロ実務検定テキスト | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2 指導の重点

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てることをねらいとした。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|-------------------------------|------------------|-----|--------------------------------------|---|---------------------------------|--|
| 4 5 | 第1章 情報社会 | 教科書 | 情報の特徴を理解する。 お互いの | 1 情報と情報社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 4 メディアとその特徴(広告・選択) 5 個人情報とその保護 | 4 3 3 3 3 | 授業態度 第1回考査 |
| 6 | 第2章 コミュニケーション | 教科書 | コミュニケーション手段を活用し互いを深める。 | 1 コミュニケーション・メールの利用 2 共通の取り決め 3 インターネットの仕組み | 3 3 3 | 提出物 |
| 7 | 第3章 情報安全 | 教科書 | 情報の安全対策について具体的方策を考察する。 | 1 個人による安全対策 2 組織による安全対策 3 安全のための情報技術 4 法規による安全対策 5 知的財産権の概要産業財産権 | 3 3 3 3 3 | 第2回考査 |
| 9 | 第4章 デジタル化 | 教科書 | デジタル化の表現方法や圧縮の仕組みを理解する。 | 1 デジタル化情報の特徴 2 静止画像の扱い 3 数値や文字の表し方 | 3 3 3 | 提出物 |
| 10 11 12 1 2 3 | 第5章 問題解決 | 教科書 | グループワークを行い、発表をする。 他のグループの意見批評をする。 | 1 問題解決するには 2 情報の収集 3 情報の整理と管理 4 分析のための工夫 5 関数と統計 6 表とグラフの活用 7 分析の実績 | 3 3 3 3 3 3 3 | 第3回考査 提出物 第4回考査 提出物 第5回考査 提出物 |

4 課題・提出物等

- 1 定期考査 第1回考査～第5回考査
- 2 各単元ごとに提出物
- 3 夏季休業中に課題（別途指示します）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|--|--|
| 評価規準 | 情報や情報社会に関心をもち、身の回りの問題解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする | 情報や情報社会における身の回りの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身につけ、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。 | 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身につけ、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。 |
| 評価方法 | 以上の観点を踏まえ、 ・授業への取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など） ・第1回から第5回定期テスト ・提出物の確認 などから、総合的に評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

1年生の授業としては、小学校・中学校で学習した基礎基本を基に情報の授業を行います。具体的にはより発展的に進めていきます。つまり、コンピュータの実習にこだわらず、考える力、発表し、コミュニケーションをはかれる力を養います。

| | | | | | |
|---------------|-----------------------|-----|---|--------|---------|
| 教科（科目） | 産業社会（産業社会と人間） | 単位数 | 2 | 年次（系列） | 1年次（必修） |
| 使用教科書 | 「産業社会と人間」新潟県教育委員会 | | | | |
| 副教材等 | 産業社会と人間ワークノート（700円程度） | | | | |
| 履修条件 資格・進路 | 必履修 | | | | |

1 学習目標

自己の適性・興味・関心を知り、上級学校見学や企業見学、就業体験（インターンシップ）などキャリア教育に関する諸活動を通して、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成を図るとともに、自己の将来の生き方や進路についての考察し、履修計画を作成することにより将来設計を前向きに考えようとする態度と方策を学び、社会人として豊かな生活を送る方策を学ぶ。

2 指導の重点

総合学科において、各自が自己の進路を考え、何を学ぶべきかを探り出し、自己のためのカリキュラムを作成するための学習をする。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 主要学習領域 | 学習活動（指導内容） | 時間 | 評価方法 |
|---------------|--------|------------------------|--------|---|----|---|
| 4 | 自己を知る | S G式職業適性検査 | 自己を知る | ・性格、適性を知る ・適性職業を考える ・進路を考える | 8 | 年間を通じて、 ・授業への取り組み ・レポート ・ファイルのまとめ ・産社ノート ・定期考査 等を基に評価する |
| 5 | 職業を知る① | 進学と職業 | 職業を知る① | ・進学と職業を考える ・産業や職業を学ぶ ・進路意識啓発後援会 | 8 | |
| 6 7 | 履修計画 | 科目選択 | 履修計画 | ・選択ガイダンス、科目説明 ・系列ガイダンス ・系列別模擬授業見学 ・履修計画の作成 | 10 | |
| 8 | 就業体験 | インターンシップ | 就業体験 | （就業体験） | 2 | |
| 9 10 11 | 地域を知る | 地域調査 | 地域を知る | ・地域調査オリエンテーション ・企業見学 ・上級学校見学 ・地域の事業所の調査 ・地域調査発表会 | 14 | |
| 12 1 | 職業を知る② | 職業生活と法律 産業の発展と社会の変化 | 職業を知る② | ・職業生活と法律 ・産業の発展と社会の変化 ・進路説明会 ・新潟県の産業 | 12 | |
| 2 | ライフプラン | | ライフプラン | ・ライフプラン作成 | 10 | |
| 3 | まとめ | | 学習のまとめ | ・自己評価 ・感想文 ・来年度に向けて | 6 | |

4 課題・提出物等

レポート（自分史、企業見学、上級学校見学、就業体験、ライフプラン 等） 履修計画票 プレゼンテーション（地域調査）

5 評価規準と評価方法

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|------|---|---|---|--|
| 評価規準 | 産業社会に関心をもち、企業や上級学校に関する情報を積極的に収集し、自らの進路実現に向けた科目選択に主体的に取り組もうとする。 | 自らの興味や関心、進路希望を基に、将来の生活設計について思考を深め、目的に応じて構成や展開を工夫して表現することができる。 | 企業見学や就業体験、上級学校見学などで得た情報について、目的に応じて情報通信技術を適切に活用してまとめることができる。 | 産業社会の構造や地域産業、企業などについて基本的な知識を身に付け、それらを自らの進路選択に向けて積極的に活用する意義を理解している。 |
| 評価方法 | ○授業への取組状況 ○出席状況 ○レポートの提出状況 ○ファイルの整理状況 ○地域調査プレゼンテーションおよび、定期考査を基に評価を行う。 | | | |

6 担当者からの一言

この科目の学習を通して、各自の進路希望を考えて2年次と3年次の履修計画を作成します。1つ1つの学習内容に積極的に取り組み、情報を整理して理解することにより、自分にとってより良い将来設計ができるよう心がけてください。